



152733



日文 701587135

信濃久孝

美義集注釋



卷之十二

中央公論社

萬葉集注釋卷第十六 奥附

昭和四十一年六月三十日初版
昭和四十七年十二月十日八版

著者 澤瀉久孝 おもだかひさたか

發行者 山越豐

印刷者 北島義俊

製版印刷所 大日本印刷株式會社

都新宿區市谷加賀町一丁目十二番地
發行所 中央公論社東京都中央區京橋二丁目一番地
地振替東京三四番

定價 千五百圓

本文抄遣

三菱製紙株式會社

表紙麻布

望月株式會社

口繪 コロタイ

株式會社東京寫眞印刷所

製本所

小泉製本株式會社

製函所

加藤製函印刷株式會社

凡例

一、原本の傳はらない古典の注釋の底本としては、その原本の時代に近い古寫本か、世に最も廣く行はれてゐる流布本か、いづれかが用ゐられがちであるが、兩者に一長一短のある事、他の古典の場合にも既に述べられてゐるところである。

私はその兩者の長を採らうとして底本の二本立といふ事を思ひついた。定本萬葉集以來、西本願寺本を底本とする事が二三の注釋書にも行はれてゐるが、それは廿卷完備した最も古い寫本としてうなづかれる態度ながら、西本願寺本と流布本とは大體系統を同じくするものであるから、私は系統を異にする古寫本と流布本（寛永本）とを照合して、兩者の間に異同がある場合はその正しいと認めた方を採つた。従つてそのいづれか一本が誤と明瞭に認められるものは一々注を加へない。その底本とした二本以外の諸本、諸注によつて訂正したもののみ注を加へた。たとへば墨とあるは版本に「黒」とあるが、類に「墨」とあるによつた事を示し、監とあるは版本に「堅監」とあるが、西野氏が「監」とせられるのによつた事を示し、^{（佐竹君 染）}とあるは諸本に「染」とあるが、佐竹君が「沫」の誤としたによつた事を示し、來とあるは他の諸本には無いが、古葉略類聚鈔にあるによつた事を示した。^{（吉）}

一、流布本と系統を異にする古寫本は殆ど廿卷完備したものなく、中には斷簡に過ぎないものもあるから、歌一首一首に

ついでどの古寫本を底本としたかを注記した。それによつてその歌の古寫本がどのあたりまで溯り得るかを明らかにし、訓詁の參考にすると共に、古寫本の新たな發見に備へる事も出来ようと考へたからである。たとへば原文の下に（類、六六）とある歌は、桂、金、天、元等の古寫本は傳はつてゐない事を示すものである。それら古寫本の時代については正確には定め難いが、本書に底本とするに當つては次の如き順によつた。

桂、金、藍、天、元、金砂子切、類、古、紀、尼、嘉。

一、古寫本の校合は複製本のあるものはすべてそれによつた。複製本に漏れたものは原本によつた。その場合はその所在を明らかにした。陽明本と京大本とは著者みづから原本について校合を加へた透寫本（著者所藏）を用ゐた。冷泉本、金澤文庫本、細井本、大矢本は校本萬葉集の注記に従つた。

一、原文の文字は大體舊字體（當用漢字體に非ずといふ意味）を用ゐたが、誤字考察のたよりを考へて、原文又は原本に近き書體と認められるものはそれによつた。「礼」（三三）、「尔」（三六）、「柎」（三九）、「弥」（四〇）、「与」（四一）の如きである。

一、原文の下に注記（類、十三・二七）は類聚古集第十三卷二十七頁の意であり、（古、一・一六才）とあるは古葉略類聚鈔第一冊十六丁表の意である。古葉略類聚鈔の現存の巻は八、九、十、十二と、巻名不明の巻との五冊であるが、本書では複製本にかりに一、二、三、四、五と名づけられてゐるのに従つた。

一、「西」（右に青）、京（青）、細などヌカシ」とあるは、シの文字が青で書かれてゐる意である。

一、本文に引用の萬葉集の歌には番號を記した。（十二三）とあるは卷十二にある三二四番の歌である。卷數をあげないものはその注釋の卷の中の歌である。

一、萬葉集以外の歌集その他諸書の下の数値はすべて巻数を示す。日本書紀は巻数によらず單に神代紀上、神武紀などと記した。古事記も中巻、下巻など書かず、神武記、仁德記などと記した。伊勢物語は池田龜鑑氏の校本にも採用せられてゐる天福本の段数をあげた。新撰字鏡は天治本によつた。享和本、群書類従本によるものは(享)(群)と注した。「倭名抄」と書いたものは倭名類聚抄十卷本であり、「和名抄」と書いたものは同、廿卷本である事を示した。高山寺本は(高)と注した。類聚名義抄は(佛、上)(法、中)など注したものは觀智院本である。色葉字類抄(上)(中)など記したものは三卷本(古典保存會刊)であり、伊呂波字類抄(一)(二)など記したものは十卷本(日本古典全集所收)である。

一、書名を省略して引用したものを左に掲げる。

桂	桂本萬葉集	文	金澤文庫本萬葉集
金	金澤本萬葉集	壬	傳王生隆祐筆本萬葉集
藍	藍紙本萬葉集	嘉	嘉曆(傳承)本萬葉集
天	天治本萬葉集	紀	紀州本(校本に神田本とあるもの)萬葉集
元	元曆(校)本萬葉集	西	西本願寺本萬葉集
類	類聚古集	細	細井本萬葉集
古	古葉略類聚鈔	陽	陽明文庫本萬葉集(京都大學所藏。校本に溫故堂本とある親本)
尼	尼崎本萬葉集		
冷	冷泉本萬葉集	矢	大矢本萬葉集

京 京大本萬葉集（校本に京都帝國大學本とあるもの。曼珠院舊藏）

無 無點本萬葉集

附 附訓本萬葉集

寬 寬永本萬葉集

仙 萬葉集注釋
（仙覺抄ともいふ）

拾 萬葉拾穗抄

管見 萬葉集管見

代 萬葉代匠記

（引用にあたり平かなを用ゐたものは初稿本、片カナを用ゐたものは精撰本）

童 萬葉集童蒙抄

考 萬葉考

槻 萬葉考槻乃落葉

玉 萬葉集玉の小琴

略 萬葉集略解

檜 萬葉集檜婦手

攷 萬葉集攷證

古義 萬葉集古義

註疏 萬葉集註疏

動植正名 萬葉古今動植正名

美 萬葉集美夫君志

文字辨證 萬葉集文字辨證

字音辨證 萬葉集字音辨證

訓義辨證 萬葉集訓義辨證

新考 萬葉集新考

（安藤野雁と井上通泰と兩氏に同名の著書があるので、井上氏新考と記したところがあるが、安藤氏のものは引用するところが少く、單に新考とあるは井上氏のものである。それも歌文珍書保存會刊行のものと國民圖書株式會社刊行のものとあり、主として前者によつたが、「増訂」と記したところは後者によつたものである。）

岸本由豆流

鹿持 雅澄

近藤 芳樹

山本 章夫

木村 正辭

木村 正辭

木村 正辭

木村 正辭

木村 正辭

増、選 増訂本萬葉集選釋

口譯 口譯萬葉集

總索引 萬葉集總索引

佐佐木信綱

折口 信夫

正宗 敦夫

新講	萬葉集新講	次田 潤
新訓	新訓萬葉集	佐佐木信綱
講義	萬葉集講義	山田 孝雄
新解	萬葉集新解	武田 祐吉
新釋	萬葉集新釋	澤瀉 久孝
(伊藤左千夫氏に同じ名の著がある。その場合は著者の名をあげた。)		
私解	萬葉集私解	花田比露思
全釋	萬葉集全釋	鴻巣 盛廣
難語難訓攷	萬葉難語難訓攷	生田 耕一
秀歌	萬葉秀歌	齋藤 茂吉
評釋篇	柿本人麿評釋篇	齋藤 茂吉
雜纂篇	柿本人麿雜纂篇	齋藤 茂吉
新見	萬葉集新見	森本 治吉
講話	萬葉集講話	澤瀉 久孝
小徑	萬葉集小徑	土屋 文明
古徑	萬葉古徑	澤瀉 久孝
作品と時代	萬葉の作品と時代	澤瀉 久孝

新校	新校萬葉集	澤瀉 久孝
定本	定本萬葉集	佐伯 梅友
論究	萬葉集論究 第一輯	佐佐木 信綱
染草考	日本上代染草考	武田 祐吉
植物新考	萬葉植物新考	松岡 靜雄
動物考	萬葉動物考	上村 六郎
續動物考	續萬葉動物考	松田 修
兵庫篇	萬葉地 兵庫篇 理研究	東 光治
大和志考	萬葉大和志考	坂口 德二
山代志考	萬葉山代志考	増田 健治
全譯	全譯萬葉集	奥野 健治
全註釋	萬葉集全註釋	奥野 健治
評釋	萬葉集評釋	武田 祐吉

(改造社版と角川版とがある。本書は主として前者によつたが、増訂されたところは後者によつた。現代かなづかひになつてゐるものは後者よりのものである。)

(橋田東聲氏、金子元臣氏、窪田空穂氏の同名の書がある。本書には著者の名を附して引用した。)

評釋 評釋萬葉集

佐佐木信綱

歌人の誕生 萬葉歌人の誕生 澤瀉 久孝

(これも著者の名を附した。)

大成 萬葉集大成

平凡社版

古典大系本 古典文學大系本萬葉集

高木市之助
五味智英
大野 晋

私注 萬葉集私注

土屋 文明

一、本書へ引用の雜誌名で、同名が他にもありなどして疑問をもたれるかと思はれるものの發行所を左にあげておく。

國 文 學 關西大學國文學會

女子大國文 京都女子大學國文學會

山 邊 道 天理大學國文學研究室

一、引用の諸書の文章は文字もみだりに變更しなかつた。但、假名に一切濁點を用ゐないものは、馴れない讀者の不便を考へて濁點を加へた。仙覺抄、代匠記などの注の如きである。

一、現代諸家の論攷の題目には「」を加へ、單行本には『』を加へて區別した。

一、上代特殊假名遣については本書中それぞれの場合に當つて述べたが、初學の方の爲に、萬葉ではア行のエ(衣)とヤ行のエ(延)との區別の他に次の十二音の區別があつた事を列舉しておく。

(甲類) 伎、^キ祢、^ネ古、^コ蘇、^ソ刀、^ト努、^ヌ比、^ヒ敵、^{テキ}美、^ミ賣、^ウ用、^ヨ路

(乙類) 紀、氣、許、曾、止、乃、非、閑、未、米、余、呂

萬葉集注釋卷第十六

萬葉集卷第十六

有由緣雜歌

- 二壯士誂娘子逢嫌適壯士入林中死時各陳心緒作歌二首 (三七六、三七七) 一〇
- 三男共娉一女娘子嘆息沈沒水底時不勝哀傷各陳心作歌三首 (三七六—三七八) 一三
- 竹取翁偶逢九箇神女贖近狎之罪作歌一首并短歌 (三九一—三九五) 一六
- 娘子等和歌九首 (三四一—三四三) 六五
- 娘子 交接壯士時欲令知親與其夫歌一首 (三四〇) 七四
- 壯士專使節赴遠境娘子累年悲嘆姿容疲羸壯士還來流淚口號歌一首 (三四四) 七五
- 娘子聞夫君歌應聲和歌一首 (三四〇) 七八
- 女子竊接壯士其親呵嘖壯士悚惕時娘子贈與夫歌一首 (三四〇) 七八
- 葛城王發陸奧時祇承緩怠王意不悅采女捧觴詠歌一首 (三八五) 八一
- 男女衆集野遊時有鄙人夫婦容姿秀衆諸仍贊嘆美貌歌一首 (三八〇) 九一
- 所幸娘子寵薄還賜奇物時娘子怨恨歌一首 (三九二) 九三

時娘子相別夫後夫正身不來徒賜褻物娘子還酬歌一首 (天〇)	九五
戀夫君歌一首并短歌 (天二、天三)	九六
時娘子戀夫君沈臥痾瘦喚其夫逝沒時口號歌一首 (天三)	一〇二
贈歌一首 (天四)	一〇三
娘子見棄夫君改適他氏壯士不知改適顯改適之緣歌一首 (天五)	一〇四
穗積親王宴飲日酒酣御歌一首 (天六)	一〇四
河村王宴居彈琴先誦歌二首 (天七、天八)	一〇六
小鯛王宴居取琴先詠歌二首 (天九、天一〇)	一一〇
兒部女王囀歌一首 (天一)	一一二
椎野連長年歌一首 (天二)	一一五
又歌一首 (天三)	一一八
長忌寸意吉麻呂歌八首 (天四—天六)	一一九
忌部首詠數種物歌一首 (天七)	一二八
境部王詠數種物歌一首 (天八)	一三九
作主未詳歌一首 (天九)	一四一

獻新田部親王歌(天長)	一四三
行文大夫謗倭人歌一首(天長)	一五一
府官設酒食誘右兵衛 名失 關荷葉作歌登時應聲歌一首(天長)	一五四
無心所者歌二首(天長、天長)	一五六
池田朝臣噉大神朝臣奧守歌一首(天長)	一六二
大神朝臣奧守報噉歌一首(天長)	一六三
平群朝臣噉歌一首(天長)	一六四
穗積朝臣和歌一首(天長)	一六七
土師宿禰水通噉吟巨勢朝臣豐人等黑色歌一首(天長)	一六七
巨勢豐人聞之酬吟歌一首(天長)	一六八
戲噉僧歌一首(天長)	一七〇
法師報歌一首(天長)	一七三
忌部黑麻呂夢裡作歌一首(天長)	一七五
河原寺和琴面無常歌二首(天長、天長)	一七六
又無常歌二首(天長、天長)	一七八

大伴宿禰家持嗤咲吉田連石麿瘦歌二首	(天長、元龜)	一八〇
高宮王詠數種物歌一首	(長安、元弘)	一八三
戀夫君歌一首	(天長)	一八六
又戀歌二首	(長安、元弘)	一八八
筑前國志賀白水郎歌十首	(長谷、長元)	一九一
無名歌六首	(長治、長運)	二〇八
豐前國白水郎歌一首	(長元)	二一九
豐後國白水郎歌一首	(長元)	二二〇
能登國歌三首	(長元、長合)	二二〇
越中國歌四首	(長元、長合)	二三一
乞食者詠歌二首	(長安、長元)	二三七
怕物歌三首	(長元、長元)	二五五

口繪

尼崎本萬葉集

寫眞目次

日和田の安積山	八二
片平村の山の井	八三
日和田の山の井	八三
奈良豆彦神社境内のこのてかしは	一五三
尼崎本萬葉集(云々)	一九九
熊來川	一二三
机の島	一二九
さしは	一三三

